

+1(プラスワン)



「花びらの前に想う」

牧師 横山順一

過日、進藤さんの車に乗せても
らったら、風の「ささやかなこの
人生」が車中にかかっていた。

ご存知、伊勢正三・作詞作曲の
名曲だ。若かった頃、青春の苦さ
をかみしめ、かつ癒された一曲だ
った。懐かしのメロディーに、思
わずうるつと来た。

だが、出だしの「花びらが散
つたあとの、桜がとても冷たくさ
れるように・・・」と口ずさんで、
ふと「そうか？」と思つてしまつ
た。まだ開花前だった。

私は、満開の桜も悪くないが、
その後の青葉がそれ以上に悪くな
いと感じる一人だ。

確かに、シーズン終了後は、あ
まり顧みられない桜だろう。それ
どころか、毛虫で煙たがられるよ
うにもなる。

もし国旗を変えらることになるな
ら、きっと桜があしらわれたもの
に違いない、とさえ思われるくら
い、桜好きの日本人は多い。

パツと咲いて、一気に散る様を

「潔し」の侍の精神に重ね、戦時
中の戦意高揚にも用いられた。

でも待てよ、と思う。花見の頃
には前夜から場所取りまでされる
割に、肝心の折さほど注目を浴び
ていない。雰囲気優先する。

まして散つてしまつたら、次の
年まで出番はないと言つて過言で
なからう。「冷たくされる」どころ
ではない。

かの歌詞は「誰にも心の片隅に
見せたくはない、ものがあるよ
ね・・・」と続く。

確かに、それはそうだ。でもそ
れと、季節が終わると顧みられな
い桜との関連が見えない。

更には「だけど人を愛したら
誰でも心のとびらを 閉め忘れて
は 傷つき、そして傷つけて

引き返すことの、できない人生に
気がつく」とまでなると、もはや
桜は完全に無関係。それはやっぱ
り若かった伊勢正三のさんげ物語
だ。

知つてますよね？伊勢正三。か
ぐや姫のメンバーでしたよ。その
後、「風」を組んだ。「二十二才の
別れ」や「なごり雪」はビッグヒ
ットとなりました(一九七五年)。

そうそう、「みつばちマーヤの冒険」
テーマソングもこの人の作品です
ぞ。

歌は、特に若い頃のシビアな思
い出と共にあって、季節ごとに思
い浮かぶ人生の大事な応援団だ。

伊勢正三に憧れて、長髪とサン
グラス、無精ひげにGパンスタイ
ルをまねたこともあったのだ。

足の長さだけはどうしようもな
かったが、恰好つけ背伸びしたか
つたのだ、きつと。

それなのに、「優しかった恋人た
ちよ 振り返るのはやめよう」な
んて言われても、もう無理。

「時の流れを 背中感じて
夕焼けに涙すればいい」って、浸
りすぎでしょ、自分に。

可愛げない突っ込みは、まさし
く年を取った証拠だ。さわやかに
そうなったのじゃなくて、ゆがん
でそうなったのかな。ま、還暦も
近いしね。

かぐや姫時代には「僕は何をや
つてもだめな男です」って歌詞を
書いた伊勢さん。

ささやかな人生をバックアップ
する強力な味方イエスが私たちに
はいると伝えたい。